

平成20年度

応募件数 32件 助成件数 8件

団体名	所在地	活動内容の概要
上士幌ニュービジネス研究会 会長 小寺友之	上士幌町	上士幌町 道の駅 設置調査事業 北海道の経済状況は厳しい。上士幌町も公共事業の減少や国際競争の荒波にさらされる農業などの影響で、働く場の確保は厳しい状況にある。その中で観光は雇用の場の提供には重要な産業であり、「道の駅」は観光振興の面からも大きな存在である。現在、上士幌町には「道の駅」がなく、観光案内や物産販売など地域振興の面から設置が望まれる。本事業は行政と連携しながら、民間主体の柔軟な発想で、「道の駅」設置に向けて市場性や採算性、施設の内容などの調査を行う。
北海道農村地域環境研究会 代表 柳田良造	札幌市	空知地域における農村人材育成としての農業塾と農産市による田園空間の再生 空知地域の田園空間は、明治開拓期の土族移住村や殖民区画の特徴的な計画による開拓で発生し、里山、防風林や屋敷林などの環境要素と一体に豊かな環境を形成している。しかし、近年地域空間を維持する担い手力が低下し、転作による草地や荒地の増加は、周辺農業の耕作に悪影響を及ぼし、コミュニティの衰退や、田園空間の環境が低下する状況が生じている。そういう中で深川の拓殖短大の農業従事者の育成コースの開設や栗沢町における新規就農をめざす若者のための農業塾の取組、地域の小中学校でのグリーンスクール（農業体験）、岩見沢農業高校による農産品の市街地での即売会等は田園空間づくりを青少年の活動レベルから進め、地域での都市と農村交流の新たな流れを生み出しつつある。 農業従事者の高齢化や後継者確保の困難さ等により深刻化する田園空間づくりを、地域空間の将来の担い手である青少年の活動を核とした農村と都市交流を行うことは農業を基盤とする北海道の地域づくりにおいて、最も重要な側面からの取り組みになり、地域づくりの基盤となる人材育成に取り組む活動でもある。
大雪カントリーライフ研究会 座長 梅谷俊一郎	旭川市	新しい農村コミュニティと大都市圏郊外商店街との交流 本研究会は新たに大雪周辺地域に移住して来た人と地域住民を中心に、平成16年8月に設立され、以来財団法人北海道地域総合振興機構の支援を受けながら、月1回のサロンの開催や年4回の情報誌発行を通して、全く新しい農村コミュニティの形成を図ってきた。この新たに形成されたコミュニティと衰退が懸念される大都市圏郊外商店街との間で、特産品をはじめとする地域情報の提供等により相互理解を深め、双方の活性化を図っていく。
積丹町美国鯨場プロムナード研究会 座長 成田静宏	積丹町	積丹町美国鯨場プロムナードの整備 本研究会は、かつて鯨場で栄えた積丹町美国地区に取り残された建造物等を再生・活用することで新たな観光と地域づくりを進めるものである。 また、その再生・活用にあたっては、地域内外の個人や団体を中心として、これに積丹町や町内外の関係者が協力する本研究会が主体となり、新たな体制を構築することとしている。
『コロボウシとカボチャの物語』実行委員会 代表 岩崎とし子	二セコ町	『コロボウシとカボチャの物語』～アートフォース・プロジェクト～ ニセコがホスピタリティの高い国際リゾート地となるには、地元住民と外国人移住者との相互理解が大切です。このために、農家や外国人が共に春夏秋冬の「農縁活動」を通じて、国際的な「人の絆」と新しい文化芸術活動を誘発します。秋（10月）には、「コロボウシ絵画展」「カボチャ彫刻展」「ニセコ・インターナショナル子ども仮装行列」などを実施する。
特定非営利活動法人 オホーツク21世紀を創る会 理事長 管野伸一	網走市	地域SNSを利用した地域コミュニティ創出事業 新たな手法による地域コミュニティの創出とオホーツクの魅力情報の全国発信による地域活性化事業を行う。 事業1 「既存地域SNS（オホーツクコネクト）改修事業」携帯電話やFAX利用可能に改修し、利用し易く改修する。 事業2 「SNS活用セミナー開催事業」講師を招聘し、SNSの理解を深めるセミナーを開催する。 事業3 「オホーツクコネクト利用講習会開催事業」SNS利用促進のため利用方法の講習会を実施する。 事業4 「オホーツクコネクトPRパンフ作成事業」オホーツクコネクトPRパンフを作成し配布する。
江別の歴史と環境文化を後世に伝える会 会長 中本毅彦	江別市	江別の歴史と環境文化を後世に伝えるデジタルアーカイブ事業 江別の古い写真が残されているが、この貴重な写真をデジタルアーカイブ化し市民に公表することで、市民の歴史認識が深まり市民参加によるまち作りが期待される。活動主体は、市民活動推進のため、非営利任意団体を組織し、大学が技術指導や公開方法の検討を行う。
エコホスピタリティーはこだて 代表 茂呂信哉	函館市	既成市街地の活性化にむけた環境に優しい観光プログラムの提供と活動拠点の形成 本事業は、函館市の歴史的市街地である「西部地区」と活性化が求められる中心市街地「大門地区」を対象に、歴史的建造物を保全・活用した観光拠点や飲食・宿泊施設、交通拠点を、「北海道初のペロタクシー」（環境に優しい自転車タクシー）によりネットワークする観光プログラムを実験的に提供するとともに、既存ストックを活用した活動拠点の形成に取り組むものです。これらの活動は、「（歴史的建造物など）既存ストックのネットワークによるビジネス化」といった道内各地でも展開可能なモデル性があり、「既存ストック活用による活動拠点形成」や「人力による楽しい移動環境創出」といった新規性がある。